

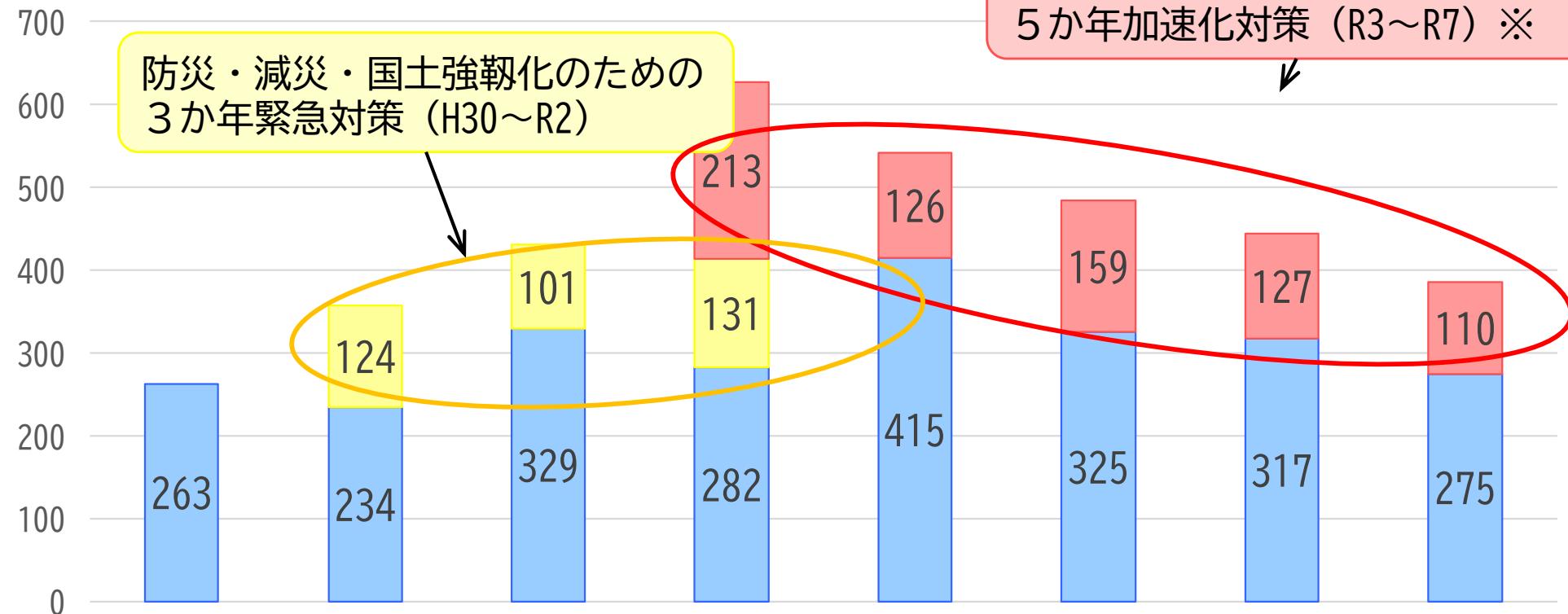
国土強靭化対策 による事業効果

2025年（令和7年）11月
滋賀県

公共事業予算額(補助事業)の推移【滋賀県土木交通部所管事業】²

◆3か年緊急対策・5か年加速化対策により国土強靭化を着実に推進
【国土強靭化対策として、H30～R6の7年間で、1,091億円を執行】

最終予算額（単位：億円）



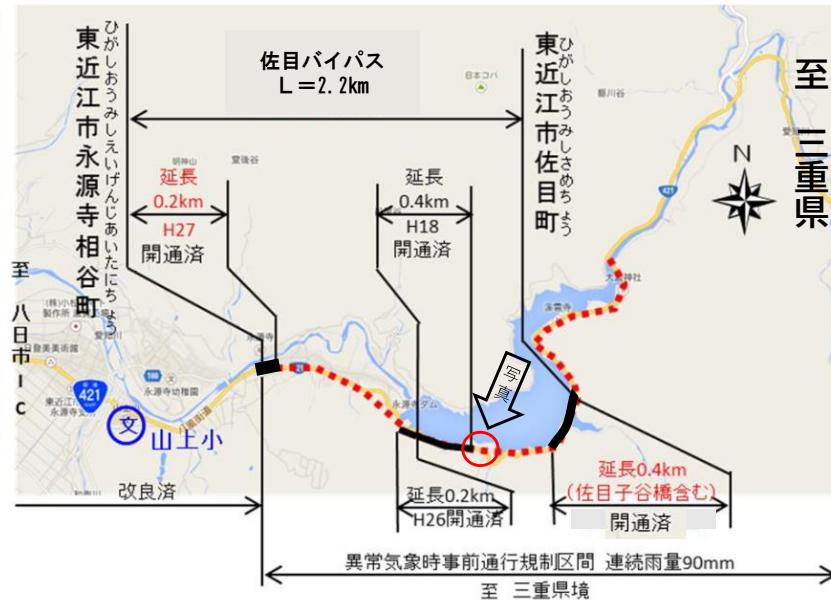
※)5か年加速化対策に係るR3～6年度予算は、それぞれ前年度の県の補正予算で措置

道路整備（国道421号）

3

三重県との県境道路である一般国道421号については、幅員狭小、線形不良に加え、異常気象時には事前通行規制となるなどの課題があるため、平成9年度よりバイパス整備に着手

位置図



●佐目バイパス工区 事業工程 [上段：— 当初計画、下段：— 実施]

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
橋梁下部工事				—	—				
橋梁上部工事					—	—			
舗装工事 交通安全対策 等						—	—	—	—

← 3か年緊急対策 → | ← 5か年加速化対策 → |

■ 国土強靭化予算の活用により、**橋梁工事を2年前倒しで施工**

(供用についても2年前倒しを予定)

■ 本県の国道・県道の整備率は低く、激甚化・頻発化する災害への備え、人流・物流の円滑な移動を確保するためには、**強靭で信頼性の高い道路ネットワークの構築がまだ必要**

<整備率> 国道・県道計 **56.6%** (全国**31位**)
直轄国道 **50.3%** (全国**34位**)

道路整備（山手幹線）

滋賀県南部については慢性的に渋滞が発生し、県民の円滑な移動に支障をきたしている。山手幹線を栗東水口道路と接続、国道1号とダブルネットワーク化し、渋滞解消を目指す。

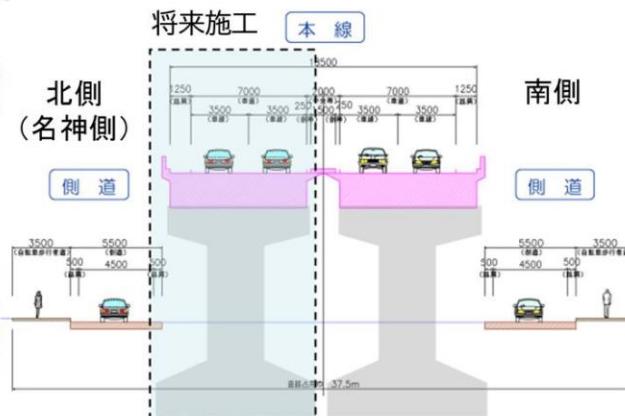
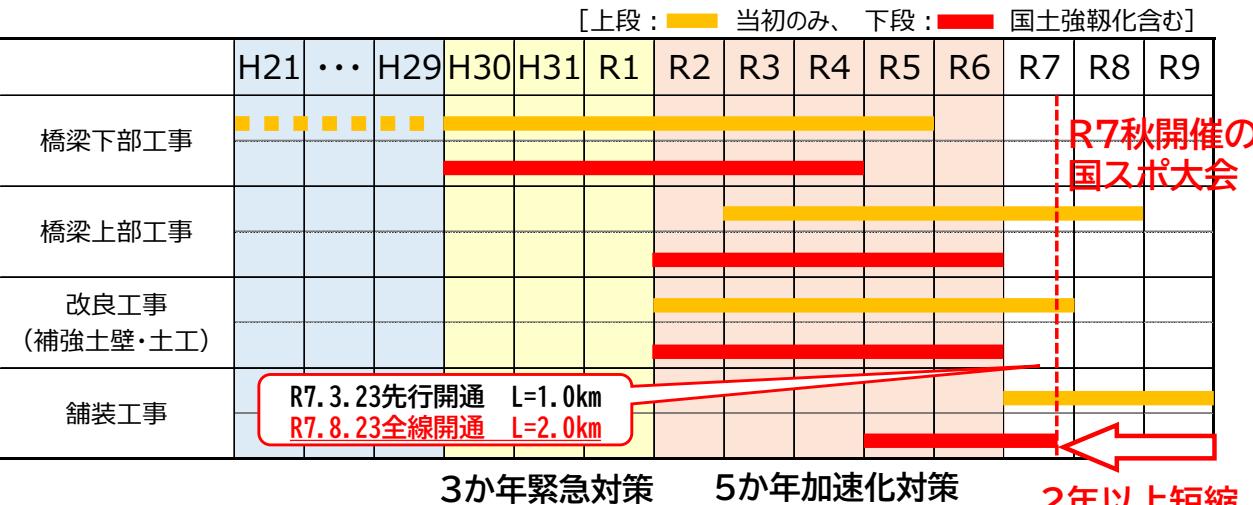


写真 山寺地区

【国土強靭化予算活用による山手幹線の早期発現効果】



- 国土強靭化予算の活用で**高架道路工事を2年以上短縮！**
 - **国スポ・障スポ大会前に全線供用！！**
(R7.8.23全線開通)
 - 本県の国道・県道の整備率は低く、激甚化・頻発化する災害への備え、人流・物流の円滑な移動確保のためには、**強靭で信頼性の高い道路ネットワークの構築がまだまだ必要**
- <整備率> 国道・県道計**56.6%** (全国**31位**)
直轄国道 **50.3%** (全国**34位**)

道路整備（雨降野今在家八日市線[御河辺橋]）

5

御河辺橋は、昭和8年に架橋（橋令90年）の橋長327mの橋梁であり、主桁、横桁および床版に剥離・鉄筋の露出やひび割れが著しく進行していることから、大規模更新を行い道路の安全性の確保を行う。

位置図



全景



主桁の鉄筋露出

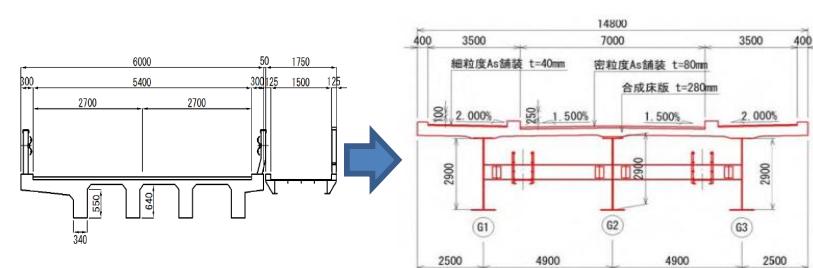
～諸元～

項目	【現】橋梁	【新】橋梁
形 式	RCT桁+鋼H桁 橋台形式不明 壁式橋脚 杭基礎	鋼7径間連続少數鋸歯形橋 逆T式橋台 張出式橋脚 場所打ち杭
橋 長	327.2m	350.8m
幅 員	7.8m (1.5車線+片側歩道)	14.8m (2車線+両側歩道)

標準断面図(新設橋梁)

(車道)2.7m×2+ (歩道)1.5m+ (地覆)
0.3m×2+0.125×2+0.05=7.8m

(車道)3.0m×2+ (路肩)0.5m×2+ (歩道)
3.5m×2+ (地覆)0.4m×2=14.8m



- 国土強靭化予算の活用により**老朽インフラの修繕・更新を強力に推進**
- 本県の国道・県道の整備率は低く、激甚化・頻発化する災害への備え、人流・物流の円滑な移動確保のためには、**強靭で信頼性の高い道路ネットワークの構築がまだまだ必要**

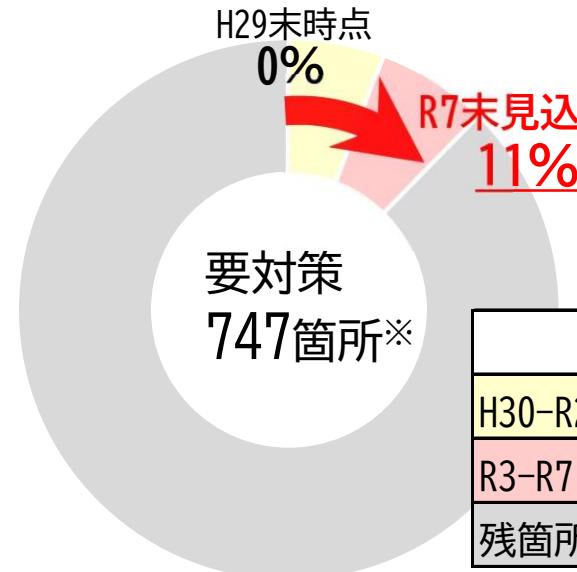
<整備率>

国道・県道計**56.6%** (全国**31位**)
直轄国道 **50.3%** (全国**34位**)

法面・盛土の土砂災害防止対策

災害発生時の交通・物流機能を確保するため、落石や表層崩壊、地すべりが発生する恐がある箇所において、法面保護や落石防護などの法面対策を実施

法面・盛土の土砂災害防止対策箇所数

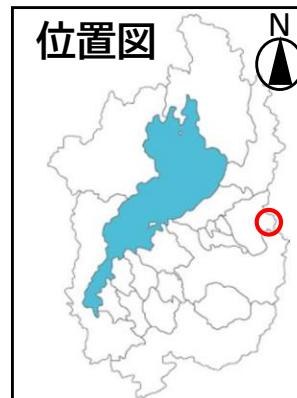


要対策箇所(747箇所)	
H30-R2(3か年緊急対策)	42
R3-R7(5か年加速化対策(見込))	41
残箇所数	664

※H29末時点を0%として要対策箇所を定めている

- 747箇所の要対策箇所において、**国土強靭化予算を活用し、法面対策を集中的に実施**
- 国土強靭化を着実に推進しているが、5か年加速化対策後も、664箇所の要対策箇所が残る見込み
- 災害発生時における信頼性の高い道路『命の道』の確保のため、**5か年加速化対策後も計画的かつ安定的な予算の確保が必要**

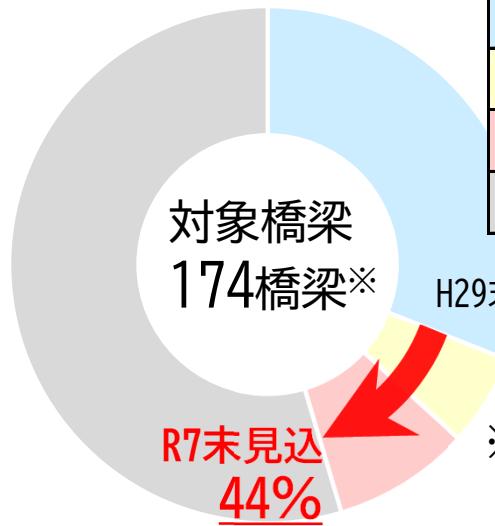
おじがはた
■国道306号 大君ヶ畠工区(犬上郡多賀町)
岐阜県との県境道路に加え、緊急輸送道路であるが、老朽化により、既設吹付モルタルや落石防護網の強度も低いことから、修繕・補強により、災害発生時の交通・物流機能を確保



道路橋耐震補強

災害時の救急救命活動や復旧支援活動を支えるため、緊急輸送道路上の橋梁について、耐震補強(大規模な地震時でも軽微な損傷に留まり、速やかな機能回復が可能となる対策)を実施

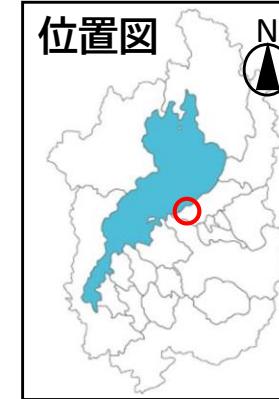
橋梁耐震補強



要対策橋梁数 (174橋)	
H29末時点	52
H30-R2(3か年緊急対策)	10
R3-R7(5か年加速化対策(見込))	15
残橋梁数	97

※令和6年度末時点の
耐震補強対象橋梁数

■犬上川橋[県道彦根近江八幡線](彦根市)
緊急輸送道路の耐震補強のため、5か年加速化対策にて落橋防止装置の設置等を行い、大規模地震時の交通・物流機能を確保



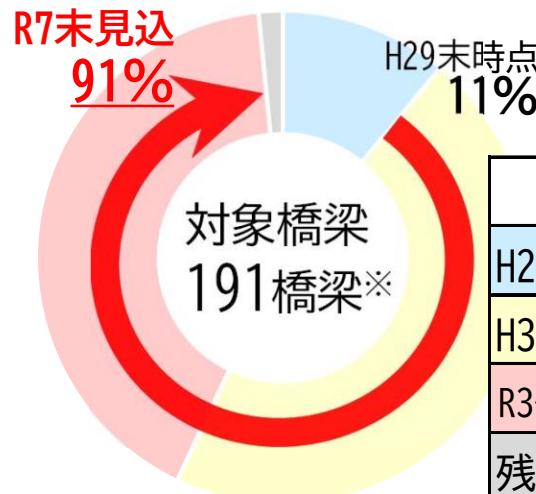
- 緊急輸送道路に指定した路線の174橋梁において、**国土強靭化予算を活用し、橋梁耐震補強を集中的に実施**
- 国土強靭化を着実に推進しているが、5か年加速化対策後も、半数以上の97橋で対策が必要となる見込み
- 落橋に対する安全性や、地震後に橋梁としての機能を速やかに回復できる耐震性能を確保するため、**5か年加速化対策後も計画的かつ安定的な予算の確保が必要**



道路橋梁メンテナンス

老朽化が進む道路橋梁において、必要な行政・社会経済システムが機能不全に陥らないよう
にしつつ、中長期的なトータルコストの縮減を図るため、予防保全型インフラメンテナンス
を実施

道路橋梁メンテナンス対策



要対策橋梁数 (191橋)	
H29末時点	21
H30-R2(3か年緊急対策)	88
R3-R7(5か年加速化対策(見込))	75
残橋梁数	7

※一巡目点検(H26-H30)で判定III・IVの橋梁数

- 一巡目点検で判定III・IVとなる191橋梁において、**国土強靭化予算を活用し、橋梁メンテナンスを集中的に実施**
- 3か年緊急対策・5か年加速化対策により、91%が完了見込みとなるが、**二巡目点検(R1-R3)では、一巡目で判定I・IIのうち、49橋が新たに判定IIIに移行**
- 交通・物流機能を健全に保つとともに、安全・安心な道路を次世代に継承するため、**5か年加速化対策後も計画的かつ安定的な予算の確保が必要**

みなみあおやぎ

■南青柳橋[主要地方道大津能登川長浜線]

(彦根市野瀬町、開出今町)

老朽化が著しく、健全度判定IIIのため、5か年加速化対策にて塗装塗替、断面修復を実施し、交通・物流機能を確保

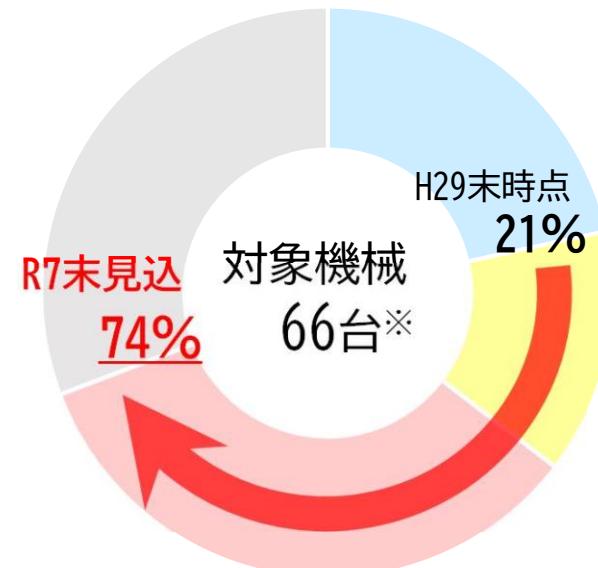


雪寒対策（除雪機械）

近年、激甚化・頻発化する異常気象による大雪対策に備え、老朽化が進む除雪機械等への対応が急務であり、大雪時の円滑な交通確保のため、除雪機械の早急な更新を実施。

※令和6年度末時点で県が所有する除雪機械台数

要更新台数（66台）	
H29末時点	14
H30-R2(3か年緊急対策)	9
R3-R7(5か年加速化対策(見込))	26
要更新台数残	17



雪寒用建設機械の損傷状況（除雪ローダ（購入後24年））



※令和5年1月の大雪による影響



■除雪機械更新(長浜市)

除雪機械の老朽化が著しく、購入後20年以上が経過していることから、修理品がなく、維持管理が困難な状況。

R421（東近江市）



R307（甲賀市）



対策後

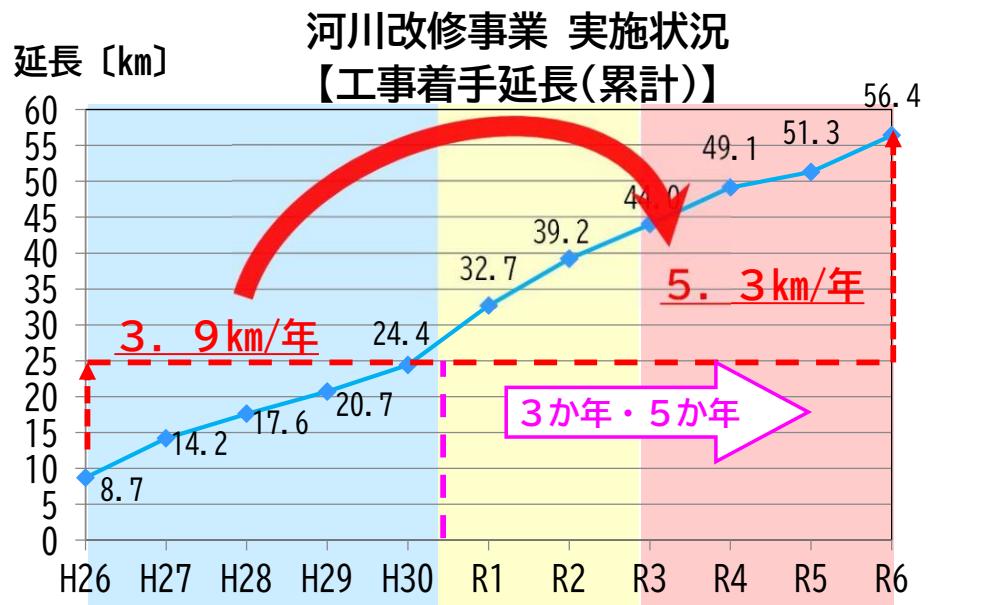


治水対策

10

激甚化・頻発化する水害から、住民のいのちと暮らしを守るため事前防災対策を実施

- 3か年緊急対策、5か年加速化対策予算を活用し、**県内全域で河川整備を強力に推進**
- 事業の前倒しを積極的に図り、多数の河川で事業に着手
- 工事着手する**河川延長が3.9km/年から5.3km/年と約1.4倍に向上**
- 改修が必要な区間は多く、住民のいのちと暮らしを守るため、**国土強靭化実施中期計画の早期策定と必要な予算での別枠での確保が必要**



ももせ

- 百瀬川(放水路整備・天井川の切下げ改修を実施)



- 北川(天井川の切下げ改修を実施)



- 藤ノ木川(天井川の切下げ改修を実施)



河川改修（大規模河川事業）

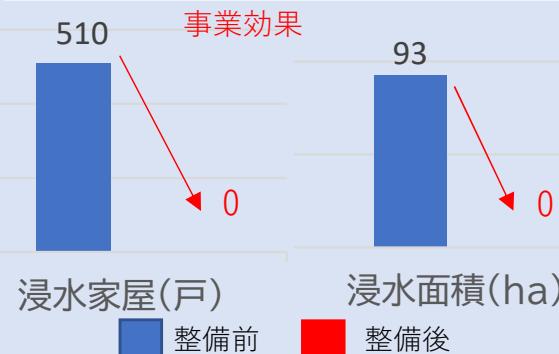
計画規模の洪水が生じた場合に氾濫する危険性が著しく高い区間で橋梁改築や放水路整備、大規模掘削等を実施

事業内容

氾濫危険区域河道掘削：姉川・高時川、山賀川

川幅が狭い区間や堤防未整備区間などの流下能力が不足している区間や、バックウォーターの恐れがある区間等で、河川の水位を低くする河道掘削等の集中的かつ重点的な投資が必要な区間で事業を実施

下流部の交付金事業と合わせて実施することで、浸水家屋510戸および浸水面積93haが解消される。
※整備計画 1/10、100m³/s

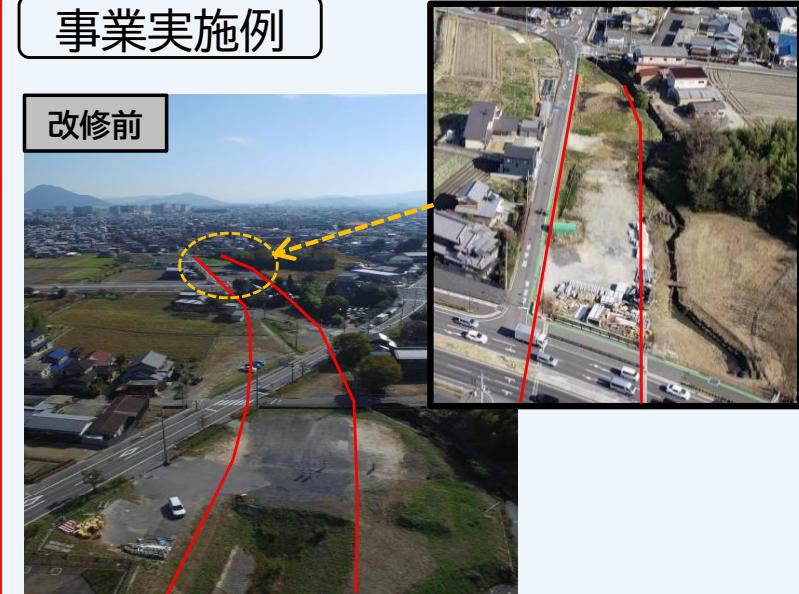


事業効果

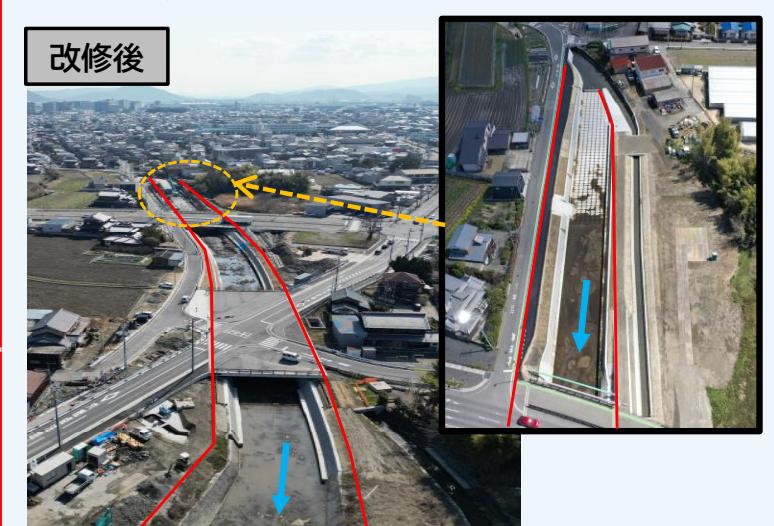
- ・特定の区間に計画的・集中的な対策を実施することにより、当該箇所の治水安全度が早期に向上

事業実施例

改修前



改修後



河道掘削（山賀川）令和6年3月完成

河川改修（大規模河川事業）

計画規模の洪水が生じた場合に氾濫する危険性が著しく高い区間で橋梁改築や放水路整備、大規模掘削等を実施

事業内容

大規模特定河川改修：鴨川（青井川放水路）、日野川、不飲川

計画高水量に対して流下能力が低く、氾濫のおそれがある区間で橋梁の改築や放水路の整備等の集中的な投資が必要な区間で事業を実施



事業効果

- ・特定の区間に計画的・集中的な対策を実施することにより、当該箇所の治水安全度が早期に向上

事業実施例

改修前



改修後

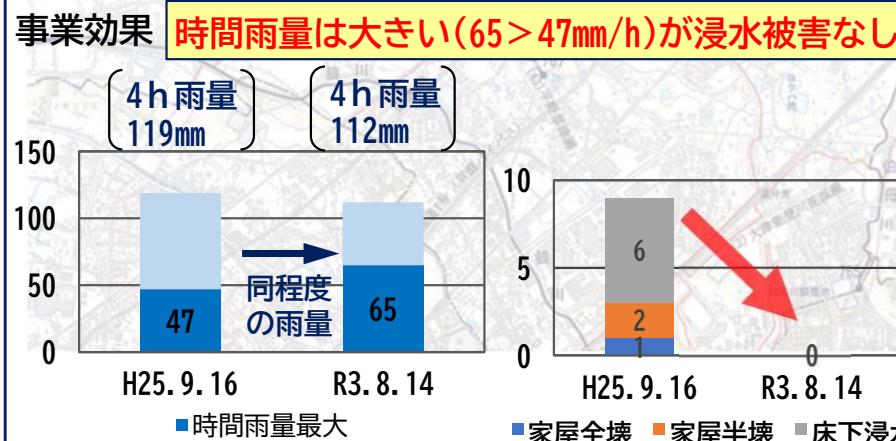


河川改修（金勝川）

平成25年の台風18号で破堤した「一級河川金勝川」では、洪水を安全に流下させるため、国土強靭化対策を積極的に活用し、天井川の切下げ、拡幅を実施



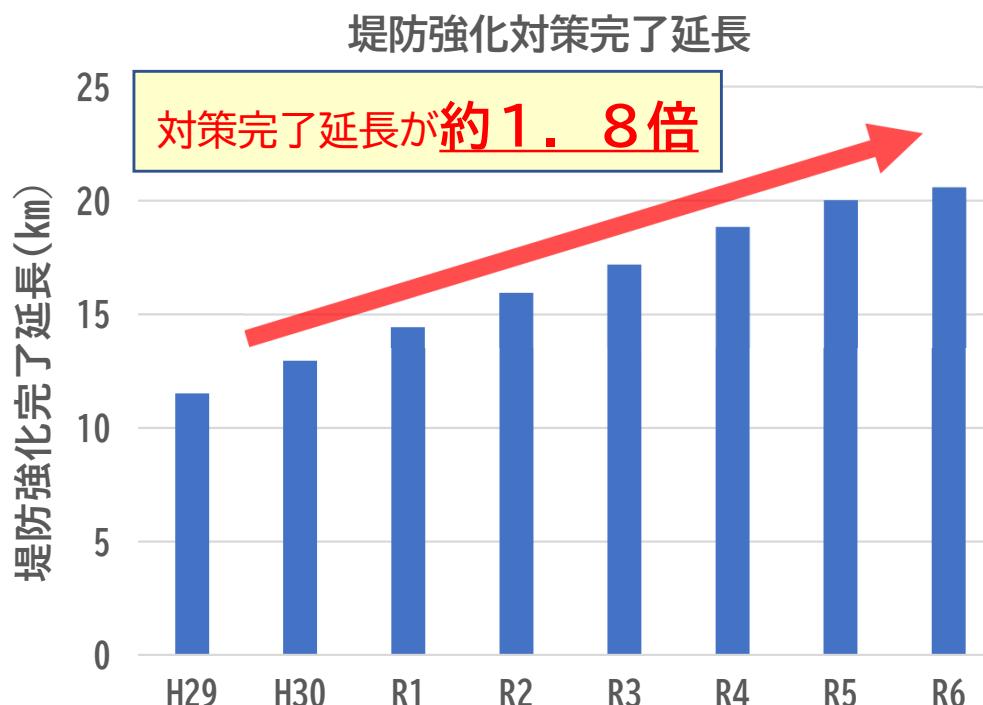
■ 令和3年8月14日の大雨では、平成25年の台風18号を超える時間雨量65mmを観測したが、**令和2年度に前倒して完了した拡幅・天井川切下げ、バイパス整備の実施**により浸水被害を回避



堤防強化対策

計画的な河川整備が及ばない範囲で、河川の形態から氾濫時に壊滅的な被害が予見される場合は、破堤による浸水被害のリスクを減少させるため、堤防強化事業を実施

- 本県は、全国最多**81本の天井川**（国内の約4割）を有しており、破堤した場合、甚大な被害が発生する恐れ
- 河川改修の着手までに時間を要する中上流部への対応として、**堤防強化対策を強化**
- 集中的な投資により、平成29年に比べ、**対策完了延長が約1.8倍に向上**



■祖父川



■芹川



■光善寺川

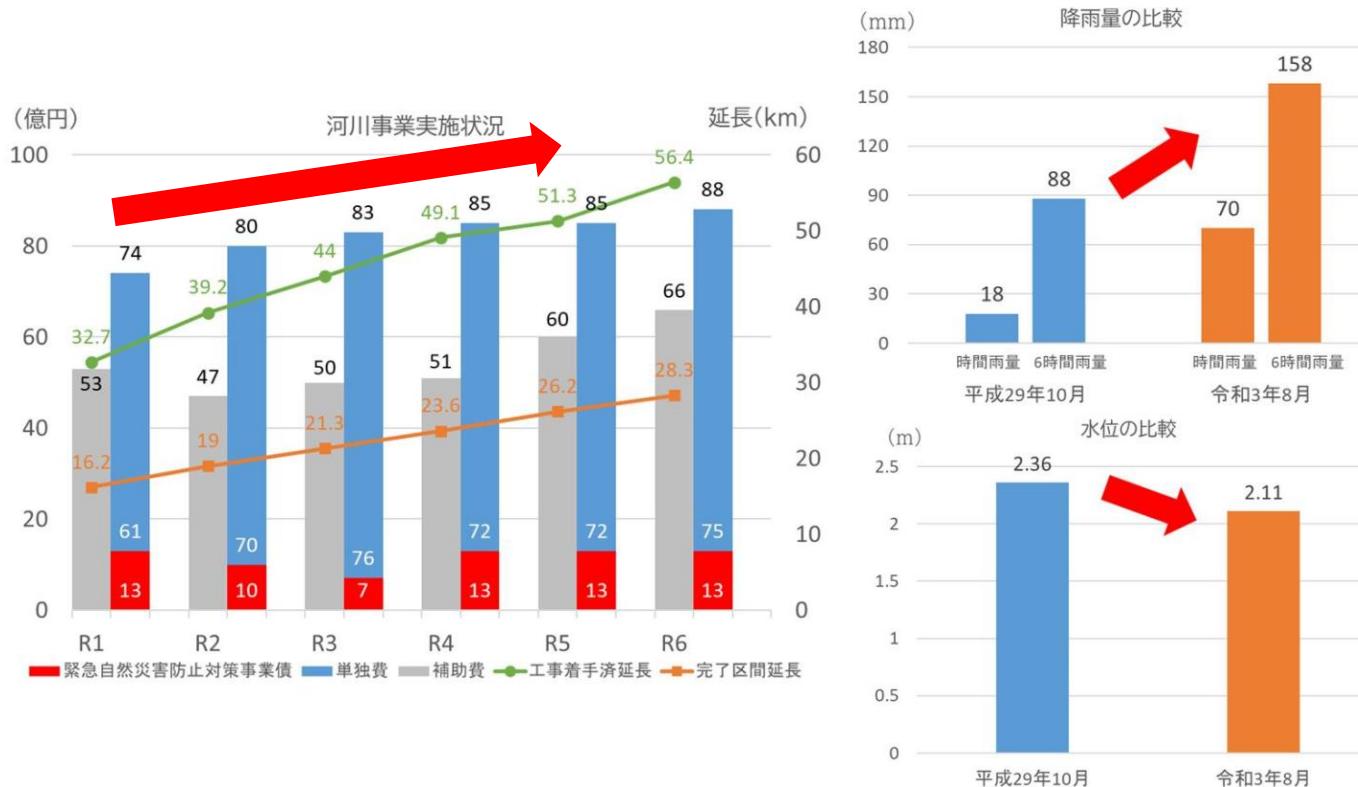


緊急自然災害防止対策事業

15

地方単独事業による防災インフラの整備を推進するため、緊急自然災害防止対策事業債を積極的に活用し、護岸整備や河道掘削、堤防強化を集中的に実施を実施

- 令和元年度より、緊急自然災害防止対策事業債を活用し、**集中的に護岸整備や河道掘削、堤防強化を実施**
- 対策により、一級河川大戸川では、**令和3年8月に平成29年10月を上回る規模の洪水が発生したが、水位は低下**
- 対策が必要な箇所は依然多く、激甚化・頻発化する災害により、新たな被災が発生するリスクも高まっていることから、**緊急自然災害防止対策事業債の更なる延長が必要**



- 一級河川 大戸川（大津市）での事例



情報基盤整備

頻発化・激甚化する水害に対し、市町の水防活動や避難指示等の発令、住民の避難判断・行動につなげるため、水位計・河川防災カメラの増設やダム管理施設等の情報基盤を整備し、充実した河川情報の安定的な提供を図る

水位計、河川防災カメラ設置状況

	H29年度	R6年度
水位計	92箇所／42河川	134箇所／71河川
河川防災カメラ	32箇所／22河川	66箇所／42河川
計	124箇所／42河川	200箇所／71河川

76箇所増、7年で約1.6倍
(河川防災カメラは倍増)

令和4年8月豪雨の状況



高時川 (13.0KP)
川合観測所

令和4年8月5日9時5分 高時川氾濫発生情報発表



高時川 (24.7KP)
菅並観測所

姉川ダム



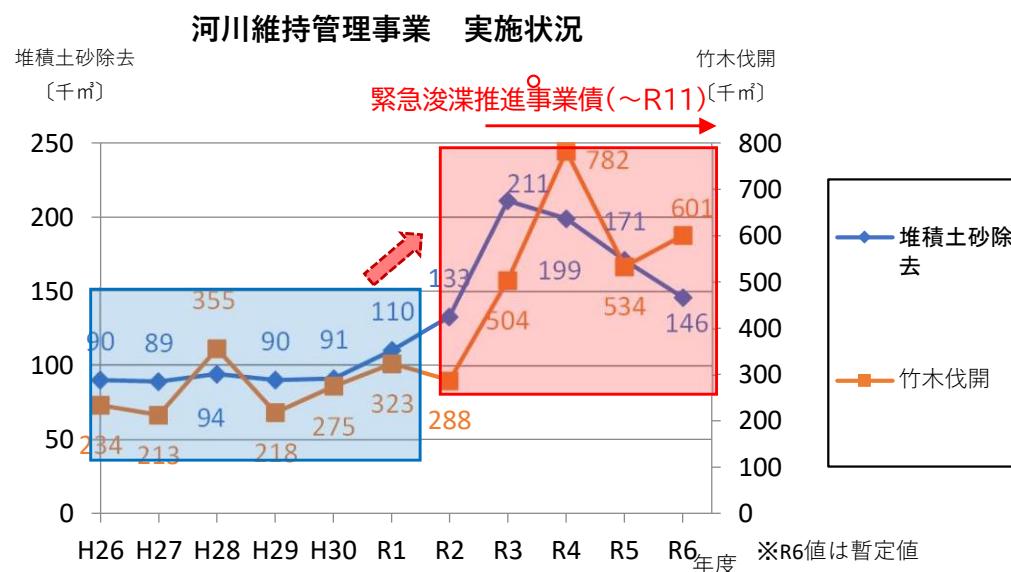
- 国土強靭化対策の活用により、**水位計、河川防災カメラを大幅に増設**（6年間で76箇所増、河川防災カメラ倍増）
- 令和4年8月豪雨の際には、**氾濫発生情報の適時の発表に活用**
- 市町の水防活動や**避難指示等の発令、住民の避難判断の目安に広く活用**
- 国土強靭化の活用により、**ダム効用の継続的な発現、およびダム機能の向上を実現**

緊急浚渫推進事業

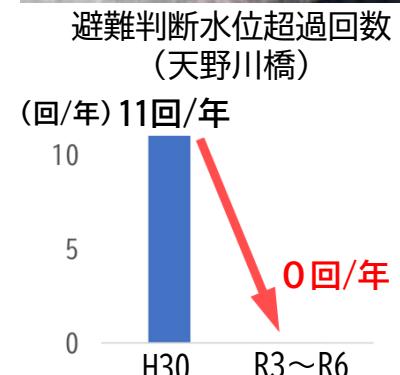
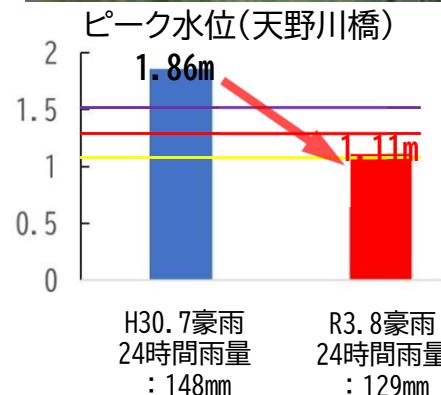
17

全国で相次ぐ河川氾濫などの浸水被害を防止するため、河道内に堆積した土砂の除去や繁茂した樹木の伐採を計画的に実施

- 令和2年度より、緊急浚渫推進事業債を活用し、**集中的に堆積土砂の撤去、樹木伐採を実施**
- 対策により、一級河川天野川では、**大雨時のピーク水位の抑制、年間の避難判断水位の超過回数の低減**につながった
- 対策が必要な箇所は依然多く、市町等からの要望も増加していることから、**緊急浚渫推進事業債の期間延長（～令和11年度）**により継続して対応



■一級河川 天野川（米原市）での事例

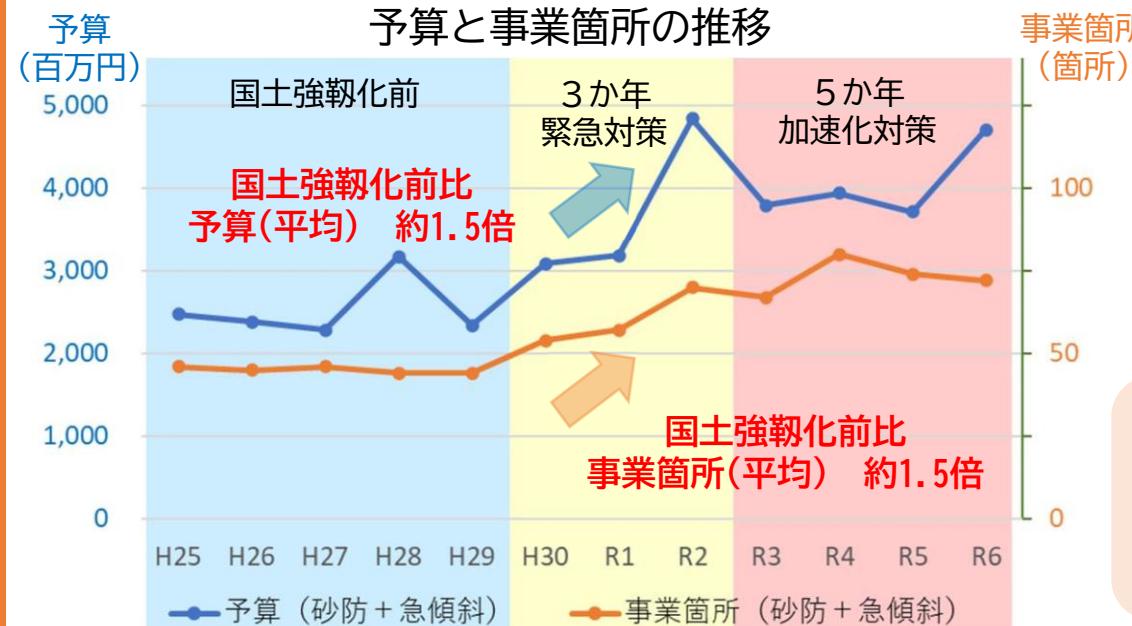


■一級河川 天川（高島市）での事例



土砂災害対策

土砂災害から住民の生命・財産、公的施設、道路等を守るために、砂防堰堤や崩壊土砂防止柵等の整備を実施



- 国土強靭化対策実施前に比べ、**事業費、事業箇所が1.5倍に向上**
- 事業を実施している箇所の**対象保全家屋数が2.5倍に向上**
- 対策が必要な箇所は多く、住民のいのちと暮らしを守るために、**5か年加速化対策後も計画的かつ安定的な予算の確保が必要**

事業実施箇所の対象保全家屋数（年平均）

国土強靭化前
5年間
約920戸/年

国土強靭化
6年間
約2,300戸/年

国土強靭化前比
約2.5倍



ガニ川（高島市）



畠谷（高島市）



沖島2地区（近江八幡市）



あいとうの
愛東外地区（東近江市）